



駐日スウェーデン大使
マグヌス・ローバック閣下



スウェーデンハウス株式会社
代表取締役社長
岡田正人

1st SPECIAL
SWEDEN
JAPAN

響きあう
ココロ。

2018年は、日本とスウェーデンの「外交関係樹立150年」のメモリアルイヤーです。

両国はこれまで長きにわたって交流を続け、

互いに理解を深めながら響きあうココロを育んできました。

2つの国は、国土も遠く離れ、言語も異なります。

でも、自然を愛することやシンプルを美とすることなど、

感性や価値観の面ではむしろ、共感し尊敬しあえる部分が多くあります。

今号は、駐日スウェーデン大使公邸でローバック大使にお話をうかがいました。

日本人のココロに響くスウェーデンのココロが

どのようにして生まれ育まれてきたのか、

ひも解いてみることにしましょう。

The
SWEDEN
HOUSE

THE PERFORMANCE FOR OUR PLANET



CONTENTS

2

[Special]

SWEDEN×JAPAN

響きあうココロ。

12

[Owner's Story]

みんなで
つくり上げる家。
The TEAM FAMILY

18

[Technology]

スウェディちゃんの
なぜ?なに?どうして?

教えてムース先生!

22

[Culture]

私の小宇宙 Sweden

23

[Life Style]

グリーンと暮らせば
Owner Gardener's Life

24

[History]

理想の街を求めて
SWEDEN HILLS DREAM

26

[SWEDEN HOUSE CIRCLE]

Good Neighbors

企画・発行：スウェーデンハウス(株)

発行人：岡田 正人

編集人：大竹 愛子

プロデュース：(株) DGコミュニケーションズ

制作：(株) 東北新社

表紙写真：Lola Akinmade Åkerström/imagebank.sweden.se

私たちのスウェーデン人はみな、
気持ちの上では、土を耕して暮ら
したいと思っています。日本と同
様に都市化が進み、最近も多く
の人がフラストレーションを感じ
ています。簡素なサマーハウス(田
舎の別宅)を持っている人も多い

ので、そこへ出かけて、便利な生
活から離れた自然の中で自由に
好きなだけ土を耕して過ごすの
です。私にも、将来庭に小さな温
室を作るといふ夢があります。ス
ウェーデンでトマトを収穫するた
めには温室が必要なのです。

「私たちはほんとうのところ、
土を耕して暮らしたいのです」

1940	1937	1935	1929	1927	1926	1922	1918
■工業デザインと住宅環境の向上に焦点が置 かれ始める	■「サープ」航空機・軍需品メーカーとして設立 ※1939〜1945 第2次世界大戦	■日本国外で初の茶室「瑞暉亭」がストック ホルムに建てられる	■日本スウェーデン協会を創設	■「ボルボ」創業	■グスタフ6世アドルフ皇太子が日本訪問	■スウェーデンの独立を祝う行事として90 kmの クロスカントリー大会「ヴァーサロベット」がス タート(1523年の独立から400年)	■「ニルス」のふしぎな旅」が初めて日本語訳



ローバック大使

日本にもすばらしい自然がたく
さんありますね。昨年は、中山
道と瀬戸内海の島々を訪ねて魅
力的な体験をしました。

「自然享受権」

誰でも自由に森の中を散歩したり、木の実を
採ったり、湖で泳いだりして過ごしてよい権利。
北欧の慣習で、ノルウェー、フィンランドにも同
様の法律がある。スウェーデンでは、多くの人が
田舎から都会に移り住むようになった1940年代以
降に唱えられ始めた。1994年「人は誰でも自然に
接する権利を有する」「自然の中に居る者は自然を
尊重すべし」の文言が法の中に記された。

「自然や木を愛する心、 クラフトマンシップ。 共通点は多いです」

岡田



スウェーデンの自然のすばら
しさには、訪れるたびに感銘を
受けています。いつも現地工場
近くのホテルに泊まるのですが、
シリアン湖の景色がすばらしく
とても気持ちがいい。スウェー
デンならだと思えます。

1912	1909	1908
日本初参加 スtockホルムオリンピック開催 金栗四三(1891〜1983) 54年ぶりのゴール 「日本マラソンの父」と称される金栗四三は、1912年に 日本初のオリンピック選手としてストックホルムオリン ピックに参加。しかし日本からの長旅の疲れと記録的な 暑さで、マラソンレース途中で意識を失って倒れてしま う。地元の人に介抱されて翌朝に意識を取り戻すも、レ ース結果に意気消沈した金栗は、ひっそりと帰国したた め行方不明扱いとされてしまった。それから半世紀以上の 時が流れた1967年、金栗はストックホルムオリンピック 開催55周年の記念式典に招待され、ようやくゴールテ ープを切ることができた(タイムは54年8ヵ月6日5時間 32分20秒3)。平成31年大河ドラマ「いだてん」の主人公。	■セルマ・ラーゲルレーヴが女性初・スウェー デン人初のノーベル文学賞を受賞	■「ハッセルブラッド」貿易会社として創業した ハッセルブラッド社の写真部門が独立(現カメ ラメーカー)

ローバック大使

「子どもたちはニルスになって、
様々なことを学ぶのです」

1940



『ニルスのふしぎな旅』

教師だったセルマ・ラーゲルレーヴ(1858〜1940)によ
って書かれた小学校の地理の副読本で、1906年に出版。
いたずらをして小人にされてしまったニルスが、ガ
チョウのモルテンと空の旅をしながら自然や人々の
暮らしに触れ、成長していく物語。1909年には、女
性として初めて、またスウェーデン人として初のノー
ベル文学賞を受賞し、『長くつ下のピッピ』を書いた
アストリッド・リンドグレンなどにも大きな影響を
与えた。日本では1980年、NHKでアニメーション
が放送され、その後スウェーデンでも好評を博した。

1907	1906	1905	1903	1901	1899	1898
■「ガデリウス」(貿易会社) 日本におけるス ウェーデン企業第1号が営業を開始	■セルマ・ラーゲルレーヴが 『ニルスのふしぎな旅』第1部刊行 翌年第2部刊行	■「バスクバーナ」最初のモーターサイクル(原 動機付き自転車)が登場	■「森林保護法を制定	■アルフレッド・ノーベル(1833〜1896)の 遺言に従い「ノーベル賞」が始まる	■画家カール・ラーションが家族との生活を描 いた水彩画シリーズ「わたしの家」を発表	■「オレフォス」ガラス工房設立

1891	1876	1873	1872	1868
■「モンスター」通信機の修理工場として設立	■岩倉遣欧使節団がスウェーデンに滞在 (1871) 工業施設、学校、国立博物館など を見学し、オスカル2世国王に接見	■「バスクバーナ」(工業製品メーカー) 鋳鉄製 のキッチン用品とミシンの製造に着手	■「ハスクリン」	■正式に国交樹立「大日本国瑞典国条約書」 締結(明治元年) 横浜のオランダ公使館で調印



モンキーレンチ発明
ヨハン・ペッテル・ヨハンソンが、
調節可能なスパナを発明。おかげ
で多くの道具が不要となり、世界
中に広がった。この発明がもとに
なって、後の「パーコ工具」が誕
生した。

スナッポン・ツールズ株式会社

のは、「自然とともに生きるこ
との大切さ」です。
本が出版されたのは、今から
100年以上も昔の20世紀初頭
のこと(1906年)。スウェー
デンでも森林破壊が進み、「森
林保護法」(1903年)で伐
採後の植林を義務化するなど、
森を大切にしようという気運
が高まっていた時代でした。
この流れは、1940年代に

「自然享受権」へとつながりま
す。これは、自然の恩恵を共有
するという北欧独特の考え方。
全ての人がいつでも自由に森の
中に立ち入り活動できる権利
です。ただし、ゴミを残さな
い、木の枝を折らない、地域の
動物や人間の邪魔をしないな
どの責任を伴う、環境先進国
スウェーデンらしい自然観とい
えます。

「個」を尊重するところも、スウェーデンらしさの1つです。特に興味深いのは、互いを認めあい、対等なチームのメンバーと考える家族の在り方です。

例えば、『ニルスのふしぎな旅』にも、「子どもたちそれぞれの個性はそれぞれにすばらしく、尊重され、守られ、愛されるべきである」という強く温かなメッセージが読み取れます。

子どもは社会の財産であり、社会全体で守り、育てていくべきという共通の認識により、スウェーデンは早くから児童福祉に力を入れました。「親子法」が定められたのは、70年近く前（1949年）のこと。さらに1979年には、世界で初めて子どもに対する体罰を法律で禁止します。

「全ての人は1人の人間として尊ばれるべきである」という考え方は、福祉大国として、また世界に先駆けて女性や子どもの権利を尊重してきたスウェーデンの、もっとも根幹の価値観と言えるのです。

子どもも大人も対等な、家族の関係。

1949

「親子法」

1949年に制定された法律で、「子はそれぞれの特性に応じて、一人の人間として尊重され、体罰またはその他精神的虐待を受けない」と定められている。育児についても、男女が平等に働く権利があるのと同様に、協力して行われている。そこには、成長を見守る楽しさを分かちあうという考え方がある。

Lina Roos/imagebank.sweden.se

ローバック大使

「子どもは

親の背中を見て育つ」

子どもはありのままの存在を尊重されなければなりません。個人的な見解ですが、子どもは大人の「言うこと」にはあまり心を動かしません。あえて教えず、なくても、日々の生活の中で、「学んでいく」のだと思います。ですから、自分という人間がどうあるべきかが大切だと思っています。それが私の子育てのモットーで、「子どもは親の背中を見て育つ」という日本の感覚でもありますね。良くも悪くも、子どもたちは日々の経験を積み重ねて、大切なことを感じ取っていくのだと思います。

1st SPECIAL
SWEDEN
JAPAN

響きあう
ココロ。

ローバック大使

「家族は、みんなが協力して 営んでいくもの」

もう1つとても大事なことは、全員が対等な家族のメンバーであるという認識です。家族は言ってみれば、ジョイントベンチャー（共同企業体あるいは合弁企業）。みんなが協力して、共同で営んでいくものだと思います。そうした平等の精神は、家の中だけでなく社会にもつながっていると考えます。

FAMILY

■親子法制定

■湯川秀樹が日本人初のノーベル賞を受賞（物理学賞）

■ストックホルムに地下鉄開通（スルツェン、カレンゲン間）

■「エレクトロラックス」家庭用食洗機を発売

■「スカンジナビア航空」民間航空機として初めて、スウェーデンから日本へ到着（55時間）

■「デトラバック社」設立

■明仁皇太子殿下がスウェーデンを初訪問 茶室「瑞暉亭」を見学

■デザイン博覧会（H55）開催 テーマは「より良い生活環境と理想の住まい」

■「東芝」日本初の電気炊飯器を発売

■「グスタフスベリ」（スウェーデンの磁器メーカー）日本で事業を開始

■「イケア」発祥の地エルフルトに第1号店をオープン

■「グスタフスベリ」ステイグ・リンドベリが日本の西武百貨店の包装紙をデザイン

3点式シートベルトの開発
ボルボのエンジニアであるニルス・ボーリンが開発。ボルボは、誰もがこの技術の恩恵を得られるよう特許を無償公開し、以来多くの命を守ることとなった。

Volvo media

■「エレクトロラックス」世界初の電子レンジを発売

■「NHKラジオ」スウェーデン語の番組放送を開始（2007年）

■外務大臣大平正芳が初めてスウェーデンを正式訪問

■トシュテン・ニルソン外相が初めて日本を訪問

■東京オリンピック

■人間工学デザインが普及し始める

■「ハッセルブラッド」ニール・アームストロング（アポロ11号）がハッセルブラッドで撮影

■国王カール16世グスタフ陛下、皇太子時代に日本訪問

■札幌冬季オリンピック、男子15kmクロスカントリースキー競技で、スウェーデンの選手が金メダルに輝く

■「スウェーデンハウス」手取貞夫による北欧視察（日野原重明博士も同行）

■親子法改正 世界で初めて、子どもへの体罰の禁止などを盛り込む（親子法第6章第1条）

■「ソニー」初代ウォークマン発売

■「NHK」日本で「ニルスのふしぎな旅」がアニメ化（NHK総合テレビで放送）

■スウェーデン国王カール16世グスタフ陛下、シルヴィア王妃、初めて日本を公式訪問

■「スウェーデンハウス」北海道石狩郡当別町に実験住宅「棟完成」（住宅性能テスト開始）

■旭川での「ヴァーサロベット」大会がスタート（1990年大会にはカール16世グスタフ陛下も旭川を訪問し、レースに参加された）



1st SPECIAL
SWEDEN
JAPAN

響きあう
ココロ。

ローバック大使

「時代を超えて愛され続けるものも、
革新的な発明も」

スウェーデンには、長年変わ
らない定番のロングセラーもあ
れば、革新的な製品もありま
す。例えば、この新しいソファ
の布地は約100年前にデザ



ローバック大使

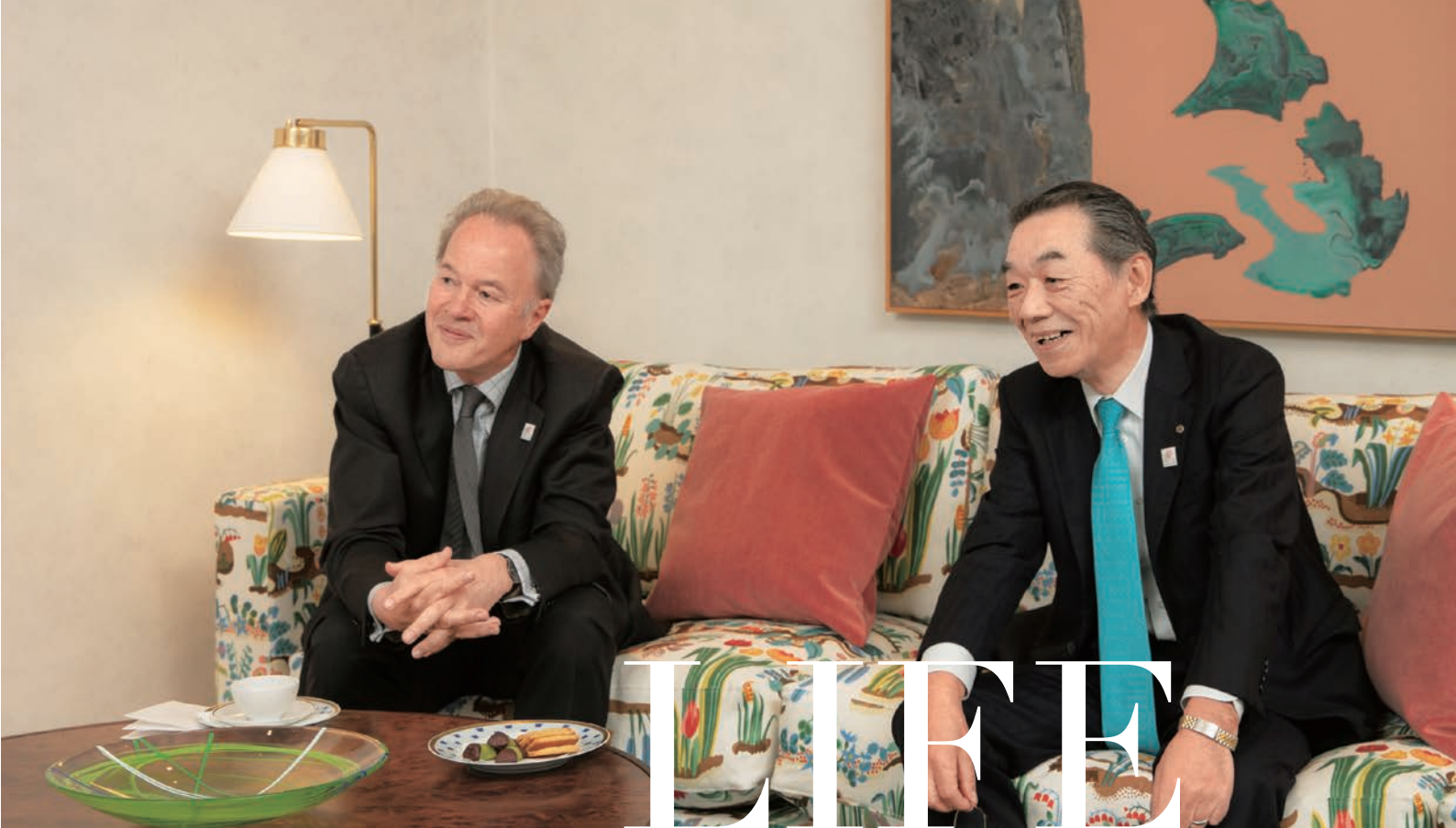
「大切に使われてきたものは、
ストーリーを持っています」

スウェーデンでは、住まいに
時間と愛情を注ぐ人がとても多
いです。快適に暮らせるように、
自らのメンテナンスをするこ
とも大好きです。だからこそ、
より一層自分の家に愛着を感じ
るのだと思います。家の中のこ
とで言うと、私は古い家具を大

切にしています。ストーリーの
あるものが好きなんです。長い
時間を過ごしてきたものたちに
は、それぞれストーリーがあり
ます。もちろん新しいものを買
うこともあります。その時は
既にあるものと調和するか
を考えます。

これまでスウェーデンのライ
フスタイルに多くを学んできま
したが、家を愛する心はほと
うにすばらしいと思います。家
は建てたら終わりではありません
。「快適に長く」暮らすため
には、普段から家の健康状態を
把握しておくことが大切です。
人間と同じですね。そのため私
たちは「家の主治医」として、
オーナーの皆様とのふれあいを
通じて住まいを見守ります。さ
らに家での暮らしを楽しんでい
ただけるような、ライフスタイ
ルのご提案ができればと思っ
ています。そのためには、安心し
て長く住める家が大前提にな
ると思います。

岡田
「家への愛着を
育めるのも、安心して
長く住める家が
あるからだと思います」



日本でも高い人気を誇る北
欧製品。スウェーデンには、世
界のスタンダードとなっている
発明が多いことをご存じです
か。時代が変わっても色褪せる
ことのないものたちは、長い歴
史の中で育まれてきました。
19世紀後半から20世紀初頭
には、建築家や芸術家がデザイ
ン運動を展開。また、社会思想
家によって「毎日使う日用品こ
そ美しくあるべき」と呼びかけ
られ、快適な暮らしに目線が
向けられます。その後1940
年代から、工業デザインと住宅
環境の向上に焦点が置かれると
一部の特権階級だけではなく、
「よい工業デザインはあらゆる

人の生活を豊かに変えられる」
という考え方が広がっていきま
す。さらに、1960年代には人
間工学デザインが普及し始め、
優れた機能で様々な問題を解
決するデザインが生み出されま
した。この時代に北欧の美学が
確立され、数々のロングセラー
が生まれ、今に続いています。
スウェーデンでは同時に、家
や家具など、時を重ねたもの
を大切に受け継ぎ、メンテナ
ンスしながら楽しむ文化があ
ります。自ら手をかけることで
新たな価値を深めていく。そ
のライフスタイルは今、私たち
日本人の新たな共感と呼んで
います。

日々の暮らしこそ、
美しく。

2018

150
SWEDEN-JAPAN
日本 スウェーデン 2018

外交 150 年を記念して、日本・スウェーデンそれぞれの地で、楽しいイベントが開催されます。
詳しくは <https://swedenjapan150.jp/>

■日本・スウェーデン
外交樹立150周年

2017

■ヴィクトリア皇太子殿下が日本訪問

2015

■ノールベル・プライズ・ダイアログ東京
スウェーデン国外として初めて東京にて開催

2008

■スウェーデン初の宇宙飛行士が種子島宇宙
センターを訪問。

2007

■カール・フォン・リンネの生誕300年祝
賀行事 天皇皇后両陛下が公式訪問

2006

■「アケア」日本に第1号店をオープン

2001

■「エレクトロラックス」世界初のロボット掃除
機を発売

2000

■天皇后両陛下がスウェーデンを公式訪問

1998

■スウェーデン国王カール16世グスタフ陛下
に、日本から63本の八重桜を寄贈

1994

■「自然享受権の文書が法の中に盛り込まれる」
■「カルラーション」展覧会 初めて日本で開催

1991

■「イーモクヒューズ」設立
■イングヴァール・カールソン首相が、首相
として初めて日本を公式訪問

1987

■レクサンド市と当別町が姉妹都市提携

1986

■「スウェーデン交流センター」スウェーデン
ルズ内に施設オープン

1985

■明仁皇太子殿下、美智子妃殿下、スウェー
デンを公式訪問（滞在中ウプサラ大学を訪れ、
庭園やカール・フォン・リンネの家族の住宅を見学）

1984

■「スウェーデンハウス株式会社」設立

1983

■「スウェーデン交流センター」設立
■「スウェーデンビルズ」開発本格化

1982

■「パーク」世界初となる人間工学に基づく「ス
クリュードライバー」を発表

- 主なスウェーデンの発明品
- コカ・コーラ瓶のデザイン
 - 安全マッチ
 - テトラパック／牛乳パックなど食品用紙容器
 - ジップ／ファスナー
 - 心臓ペースメーカー
 - ATM
 - 空調設備／エアコン
 - ボールペアリリング
 - ガスバーナー
 - ブルートゥース など

1st SPECIAL SWEDEN JAPAN

響きあう
ココロ。

木の家に見つけた、
ほんとうの豊かさ。

SWEDEN HOUSE

2013

全棟高性能保証表示システム
CQ24+U 発表

2013年10月の改正省エネルギー法（平成28年基準）の施工に先駆け、7月に全棟U値表示を加えたシステムを発表。



2015

新潟モデルハウス
(2015～現在)



2015-2018

2015～2018年
オリコン顧客満足度調査
ハウスメーカー注文住宅
お客様満足度
4年連続総合1位

2018

スウェーデンハウス株式会社
創立35年を迎えました

スウェーデンハウスはこれからも、スウェーデンと響きあうココロを育みながら、日本の住まいのスタンダードを目指して参ります。

「快適な家で豊かな暮らしを長く続けていただきたい」という信念のもと、妥協することなく高い快適性能にこだわってきました。

スウェーデンハウスは、創業35年を迎えました。スウェーデンで生まれ、日本で育まれた高性能住宅。3万5000を超えるその一棟一棟に、それぞれの住まい方、豊かな暮らし方が息づいています。

北海道に建てた2棟の実験棟からスタートして現在に至るまで、基本的な住宅性能はワンスベックです。それは1棟目のお宅も、3万5000棟目のお宅も、スウェーデンハウスにお住まいのすべてのご家族に等しく。

時代を超える、
住宅のスタンダードへ。

2008

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック2007
大賞受賞

2006



千里モデルハウス (2006～現在)

2004

地球温暖化防止活動
環境大臣表彰受賞

2003 実大震動実験を実施



日進モデルハウス (2003～現在)

1999

全棟高性能保証表示システム
CQ+24 発表



日本で初めて、お引渡しする全住宅の性能を測定・表示、数値を保証。24時間換気と合わせてご提供するシステムを発表。



金沢駅西モデルハウス (1999～現在)

2000

50年間無料定期検診システム
ヒュース・ドクトル50発表



2002

広島モデルハウス
(2002～現在)

1998



長久手モデルハウス (1998～現在)

1997

省エネルギー住宅賞
建設大臣賞受賞



1991

スウェーデン現地工場
トーモクヒュース設立

1992

(財)住宅・建築省エネルギー機構
省エネルギー住宅賞
硝子繊維協会会長賞受賞



1986

The SwedenHouse 創刊
(1987 スウェーデンハウス倶楽部 設立)



上野幌モデルハウス (1998～2001)

1984

スウェーデンハウス株式会社 設立

当初19名でスタート。実験棟での「体験入居」を企画したところ、予想をはるかに超える応募があり、これが現在の宿泊体験の先駆けとなった。



第1号モデルハウス
豊平モデルハウス (1984～1998)

1985

二子玉川モデルハウス (1985～1989)



1946

終戦後の深刻な住宅不足の中、住宅用の組立部材に力を入れる。東京・八重洲に、三菱商事が販売を担当する計画で、展示用住宅を建築したほどだった。
被災の少なかった北海道の森林資源は、本州の失われた住宅を再建するための重要な資材となった。

1949

トーモクの前身である東洋木材企業株式会社に社名変更

1950

ドッジラインの影響により炭坑住宅が発注停止、住宅事業から撤退。
良質の住宅を提供する構想は経営者の胸中で温められ続ける。

1948

新たな販売先として北海道で炭坑住宅を手がけ、組立住宅生産全国第2位に成長。戦後復興住宅と呼ばれる3～5坪のパネル式組立住宅であった。

1970

東洋木材企業株式会社からトーモクへの社名変更が決定

1976

スウェーデンの住宅との出会い。

1984

スウェーデンハウス株式会社 設立



スウェーデンハウス設立までの軌跡